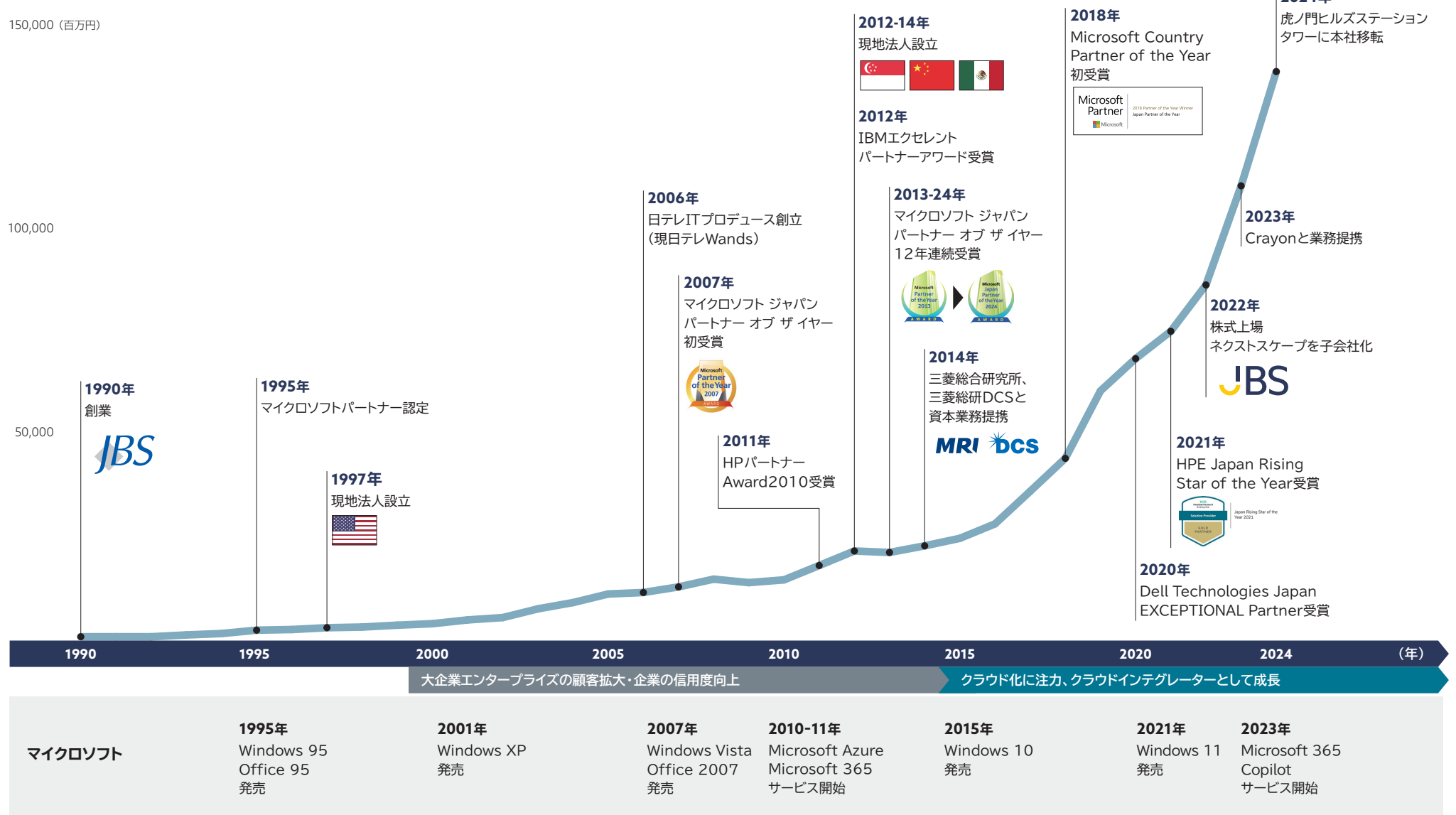


価値創造の歴史

当社は創業以来、マルチベンダーのシステムを提供する会社として、グローバルで優れた機能・実績を持つメーカー各社と連携しながら、お客さまに最適なクラウドソリューションを提供しています。

売上高

150,000 (百万円)



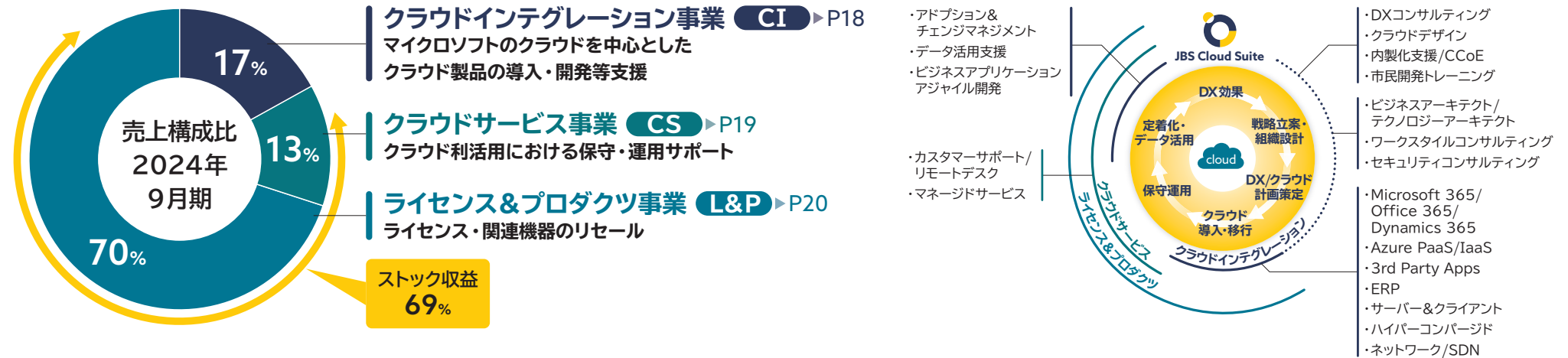
※ 折線グラフは売上高の推移

JBSのビジネスモデル

クラウド導入の戦略立案から利活用・定着化支援までをワンストップでサポートし、お客さまのDXを実現します。

JBSの事業内容

マイクロソフトをはじめとするクラウドソリューションに強みを持つ当社グループは、コンサルティングからソリューション導入・運用・利活用に至る一連の支援をしています。クラウドサービス事業の保守運用売上と、ライセンス&プロダクツ事業のクラウドライセンス売上は、定期的な契約更新により安定的な売上が見込めるストック型収益となっており、2024年9月期のストック収益は、全体売上の69%を占めました。



事業の収益構造例

クラウド導入/開発/運用支援



主にエンジニアの稼働に基づいています。プロジェクトの難易度に応じた単価と従事する時間に応じて料金が発生し、それが収益となります。例えば、システム構築、アプリ開発・運用サポートなどが該当します。

計上セグメント **CI/CS(常駐)**

マネージドサービス



自社開発のアプリやリモートサービスをお客さまが利用することで料金が発生します。定期的な契約に基づき人工にも左右されないため、安定した収益が確保できます。また、事業拡大により、収益性の向上が見込めます。

計上セグメント **CS(自社サービス)**

リセール



ライセンス及びサーバーやPCなどのプロダクト販売売上が、収益となります。継続的な収益が見込めるライセンスが大半を占め、その提供を通じて得た顧客基盤を足がかりに、CI事業やCS事業へ展開し、ビジネスの拡大につなげています。

計上セグメント **L&P**

JBSの現在地

当社グループは、世界を代表するテックリーダーと強固に連携し、さまざまな業種・業態のお客さまのニーズにお応えすることで信頼関係を深めてきました。また、子会社・関連会社とともに国内外でサポート体制を強化しています。

JBSグループのビジネスの流れ

お客さまにとっての「最適」を実現するテックリーダーとの強いパートナーシップ

Special Partner



Modern Workplace



Data DX



Biz App / DevOps



Security



Multi Cloud / Platform



Endpoint



Cloud Connect



テクノロジー利活用の社会価値・企業価値を創出するグループシナジー

三菱総合研究所
上流デザイン

19.7%出資



100%子会社

ネクストスケープ

アプリ開発

20.2%出資

日テレWands

メディア向け

20%出資

Crayon Japan

グローバル対応

幅広い業種にわたるお客さまとの強固な信頼関係



金融・保険
(25%)



製造・流通
(45%)



通信・メディア
(17%)



サービス・公共・その他
(12%)

※ 括弧内は、2024年9月期における売上高構成比

当社グループでは、お客さまのIT課題だけでなく、ビジネス課題を解決するため、マイクロソフトをはじめ各分野で強みを持つグローバルテックリーダーと強固に連携し、マルチベンダーとしてお客さまに最適なシステム環境を提案しています。

また、当社が事業拡大を見据えている領域に強みを持つ三菱総合研究所、子会社のネクストスケープ、関連会社の日テレWandsと戦略的連携を深め、より付加価値の高いサービスの提供に努めています。

さらに、国内と海外5拠点が連携し、日本のお客さまの海外進出を支援しています。世界有数のマイクロソフトパートナーであるCrayonとの戦略的業務提携により、世界46か国、55拠点をカバーするサポート体制を整えています。

JBSの事業拠点

国内 6 拠点

東京本社
北海道・中部・西日本・九州・沖縄

海外 5 拠点

米国・メキシコ・中国・
香港・シンガポール

競争力の源泉



社会関係資本

パートナーシップ

世界を代表するグローバルテックカンパニーと強固に連携、実績があるパートナーとして数々のアワードを受賞



グローバルビジネス

世界46か国、55拠点で、日系グローバル企業を支援

JBS国内6拠点と海外5拠点が連携。

さらに、世界有数のマイクロソフトパートナーCrayonとの戦略的業務提携により、グローバルで一貫したサービスを提供



幅広い業種にわたる顧客基盤

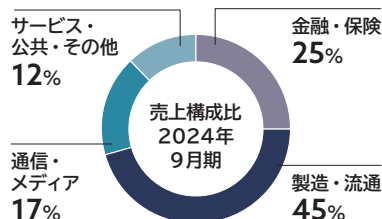
クラウドサービス
提供実績

238万ID/1,400万ユーザー※

取引社数

1,800社+

30年以上にわたるIT支援を通じて、幅広い業界・業種を代表するエンタープライズと直接取引



※ 2024年版「中小企業白書」大企業に属する従業者数2021年 約1,438万人



人的資本

多様なプロフェッショナル人材

安定した採用力と、人材育成プログラムにより事業成長に必要な陣容を順調に拡大

▶ P28 人材育成

連結従業員数

2,700名

専門性が高いエンジニア集団

全社員のうち76%をエンジニアが占め、お客さまのデジタル変革を支援

マイクロソフトに関する資格者

Microsoft Certified

4,809名(延べ人数)

Fundamentals (基礎)

2,910名

Associate (中級)

1,365名

Expert (上級)

534名

MVP **3名**

Top Partner Engineer Award 受賞者

18名

マイクロソフトの知見・実績

クラウドソリューションに関する専門性の認定
Specialization



パートナー最多 **7** 分野



知的資本

多様な生成AI技術を駆使

AIベンチャー、データ専門ベンダーも含めたあらゆる最新技術を活用しお客さまの課題を解決

Microsoft 365 Copilot (以下、Copilot) はもちろん、Azure OpenAI Serviceや他の生成AIモデルも含めて、幅広くあらゆる技術に対応。適用領域に応じて最適なソリューションを提供。

▶ P23 生成AI



JBS独自のソリューション

確かな実績を持ち、クラウド活用の専門家としての高度な専門性を活かした自社開発サービスを蓄積



企業や組織のクラウドDX推進を支援するための統合ソリューション群



クラウドの戦略策定・構築から運用までのワンストップソリューション



クラウドサービスを最適に利用するためのプラットフォーム

技術検証

最先端のテクノロジーやサービスをいち早く社内で先行検証

社内で蓄積した活用・運用のノウハウに基づき、お客さまに実現性と定着性の高い提案を行っています。



マテリアリティと主な取り組み

社会課題の解決を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを目的として、「事業機会」に関する4つのマテリアリティと、JBSグループの持続的な事業成長を支える「経営基盤」に関する2つのマテリアリティ、計6つのマテリアリティを特定しました。

重点テーマ（社会課題）		JBSのマテリアリティ	内容	事業及び財務への影響				主な取り組み
				リスク	機会	顕在時期	影響度	
事業機会	イノベーションの推進	 クラウド導入効果の最大化	JBSは、世界標準のフレームワークをベースに、お客さまごとに必要な技術を最適な形で適用させることで、迅速に導入でき、技術革新がもたらす経済生産性の向上をはじめとするさまざまな効果を最大限に享受できる状態を目指します。	—	○	短～長期	大	クラウドサービスや生成AI関連商品を中心とした利活用促進サービスや導入効果可視化サービスの開発・提供、顧客内のITスキル向上のための内製化支援
	安心・安全な社会インフラ	 時代に即したIT環境の実現・維持	JBSは、お客さまが常に安心、安全にビジネスを行えるよう、実証されているIT環境への移行と、最新のセキュリティ環境の継続的な適用支援を通じて、お客さまの持続的成長を支えるレジリエントなインフラの実現と維持を支援します。	—	○	短～長期	大	クラウドやAIを含むIT環境のセキュリティ診断・監視運用サービスの開発・提供
	働き方・活躍	 すべての人が生きがいを感じる多様な働き方の実現	JBSは、多様化するコミュニケーションのあり方に対して、先進テクノロジーによるデジタルとリアルを組み合わせた新たなワークスタイルを提案することで、個人のウェルビーイングにつながる多様な働き方の実現を支援します。	—	○	短～長期	大	クラウドサービスや生成AIに関連する業務効率化や自動化に関する業務・ITシステムの構築、運営支援
	環境	 パートナーとの協創によるカーボンネガティブへの貢献	JBSは、テックリードカンパニーの環境に対する取り組みと連携し、クラウド活用によるお客さまのCO ₂ 削減を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。	○	—	中～長期	中	クラウド利活用推進によるCO ₂ 削減への貢献、JBSにおけるGHGデータの算出による可視化
経営基盤	人材	 信頼されるクラウドプロフェッショナル人材の育成	JBSは、お客さまとの信頼関係を構築できるクラウドネイティブな人材の育成に向けて、社員が最大限に活躍できる環境づくりへの惜しみない投資を継続し、お客さまへの提供価値の最大化を目指します。	○	○	中～長期	大	リスクリングプログラムを含む各種研修制度の見直しや、キャリアカウンセリングルーム、キャリア申告制度の運用、リファラル・アルムナイ採用の強化
	DE&I	 すべての社員が個性を最大限に活かせる企業文化の醸成	JBSは、社員一人ひとりの価値観を互いに尊重し合う職場環境や、多様な人材が公平に活躍でき、最大限にパフォーマンスを発揮できる制度設計を構築することで、組織と人材の力を最大限に生かす企業風土を醸成します。	○	○	中～長期	中	DE&Iポリシー策定、女性活躍推進施策の充実化、男性育休取得の促進、障がい者雇用に関する相談窓口の設置、シニア人材活躍施策実施

マテリアリティ特定プロセスは、当社Webサイトにてご覧いただけます。▶ <https://www.jbs.co.jp/corp/sustainability/basic-policy>

JBSグループの社会価値・企業価値

社会課題
重点テーマ

イノベーションの
推進



マテリアリティ

クラウド導入効果の最大化

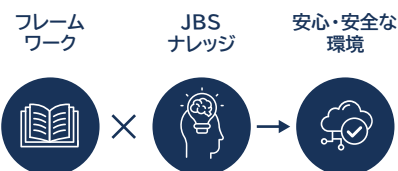
関連する主なSDGs SDGs8-2 技術革新を通じた経済生産性の向上



世界標準のフレームワークに基づき、お客さまごとに最適な技術を適用することで迅速な導入を可能とし、経済生産性の向上をはじめとする技術革新が多岐にわたりお客さまにもたらす効果を最大化

● 当社の支援サービスによって得られるメリット

安心・安全なクラウド環境が
効率的に手に入ります



- クラウド基盤設計のフレームワークとなるCloud Adoption Framework (CAF)とWell-Architected Framework (W-AF)の推奨事項に準拠
- クラウドならではの考慮点をおさえた設計

利用し続けるための
サービス設計



- クラウド導入における中長期計画立案を支援
- 運用しやすいクラウド環境を設計・構築
- システムを安定稼働させるための運用を支援

当社は、さまざまな業種・業態におけるクラウド導入実績を持つクラウドインテグレーターとして、高度な専門性と確かな実績により、お客さまの状況に応じた最適なクラウド戦略の立案、サービス導入支援、運用負荷の軽減を実現します。

クラウドインテグレーターとして、クラウドによる戦略策定から運用までワンストップで支援します。例えば、JBS独自ソリューションであるJBS Cloud Suiteは世界中で効果が実証されているベストプラクティスを基に設計されているため、お客さまはより効率的に、デジタル化を推進できます。

社会課題
重点テーマ

安心・安全な
社会インフラ



マテリアリティ

時代に即したIT環境の実現・維持

関連する主なSDGs SDGs9-1 経済発展を支えるインフラ開発



お客さまが安心して、安全にビジネスを行えるよう
実証済みのIT環境への移行と、最新セキュリティの継続適用を通じて
お客さまの持続的成長を支援

● お客さまの経営課題に対応したセキュリティサービス提供

セキュリティの経営課題

A 投資計画が
立てられない

セキュリティの知見不足により、
適切な投資計画が立てられない

B 対策すべき範囲が
わからない

ビジネスを脅かす脅威変化が
激しく、何をどこまでやるべきか
わからない

C 運用を回せない

セキュリティ人材不足により、
セキュリティ運用を回せない

課題を網羅し検討・導入・運用のプロセスごとにサービスを提供

検討支援

リスクの可視化

A B を解決!

導入支援

対応・対策

A B を解決!

運用支援

セキュリティ監視

C を解決!

当社では、セキュリティ対策を単なる技術的防御手段ではなく、企業全体のリスクマネジメントの一環として捉えています。そのため、企業の持続的成長の基盤として欠かさない要素と考えています。

また、クラウドサービスの普及やシステム構成の高度化に伴い、最新のセキュリティ技術の理解と、安全なクラウド環境の構築・維持、そして企業資産保護のための情報セキュリティが一層重要視されています。年々複雑化するお客さまのセキュリティ要件に応えるためには、経営課題を理解したうえでの提案活動が不可欠です。当社は、お客さまごとに異なるニーズに対応した最適な形でサービス提供することを重視し、検討・導入・運用のすべてのプロセスにわたる包括的なサービスを展開しています。

社会課題
重点テーマ働き方・
活躍

マテリアリティ

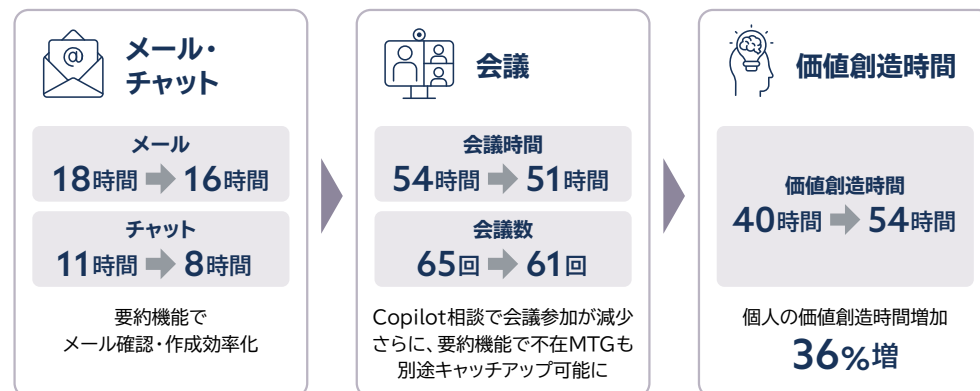
すべての人が生きがいを感じる
多様な働き方の実現

関連する主なSDGs SDGs8-5 すべての人に働きがいある仕事の提供



多様化するコミュニケーションのあり方に対して
先進テクノロジーによる新たなワークスタイルを提案することで
個人のウェルビーイングにつながる多様な働き方の実現を支援

● Copilot+先行検証プログラムによる働き方の変化



1ユーザー当たりの値/月

対象者：先行検証プログラムユーザー：300名

調査対象期間：先行検証プログラム導入前後（2023年5～7月、2023年12月～2024年2月での比較）

テクノロジーの進化により、多くの企業がテレワーク環境の構築、オンライン会議の導入など新たなワークスタイルの実現に向けたITを取り入れています。これらの新しい働き方を定着させるためには、PDCAサイクルで効果を測定・評価し、次の策を検討することが大切です。

例えば当社では、AIアシスタントツール「Copilot」の正式リリース前である2023年8月から先行検証プログラムに参加し、技術検証を行いました。その結果、メールや会議の時間削減に伴い、本来自分が行うべき仕事にフォーカスできる時間である価値創造時間が30%以上増加しました。このように社内実際に活用するなかで得られるデータやナレッジをお客さま向けのサービスに反映し、企業の生成AI活用レベル向上と、DX推進に貢献しています。

▶ P23 生成AI

社会課題
重点テーマ

環境



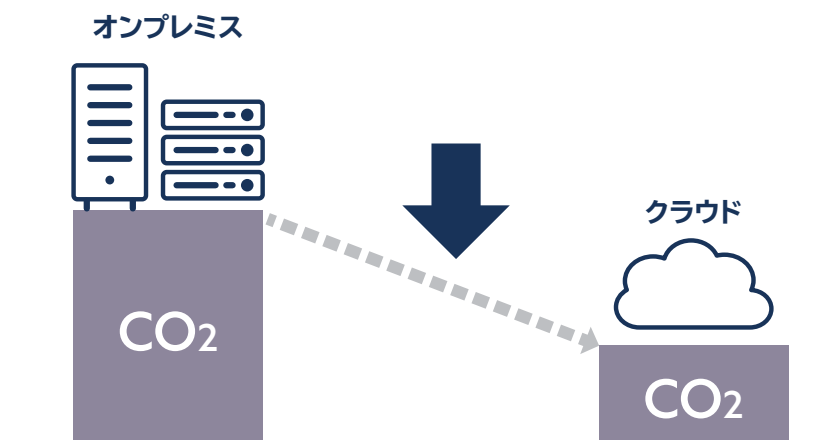
マテリアリティ

パートナーとの協創による
カーボンネガティブへの貢献

関連する主なSDGs SDGs9-4 環境に配慮した技術の利用



グローバルテックリーダーの環境に対する取り組みと連携し
クラウド活用によるお客さまのCO₂削減を通じて
持続可能な社会の実現に貢献

● クラウド移行によるCO₂排出量の削減イメージ

企業のIT関連業務をオンプレミス環境から、クラウドインフラに移行することにより、エネルギー消費量とそれに付随するCO₂排出量の削減につながる可能性があると言われています。当社は、オンプレミスからクラウドへの転換を加速させることで、顧客企業のエネルギー消費量の削減に貢献しています。また、クラウドソリューションの導入において当社が強みを持つMicrosoft AzureやMicrosoft 365を提供するマイクロソフトは、すでにカーボンニュートラルを実現し、2030年までにCO₂吸収量が排出量を上回るカーボンネガティブの実現を目指すとして発表しています。

また、ハードウェアメーカーなどのパートナー各社も、環境に配慮した製品やソリューションを提供しています。これらの企業の取り組みを支持し、連携することによって地球環境の保全に努めています。

社会課題
重点テーマ

人材



マテリアリティ

**信頼される
クラウドプロフェッショナル人材の育成**

関連する主なSDGs SDGs4-4 働きがいのある仕事のために十分な職業スキル教育



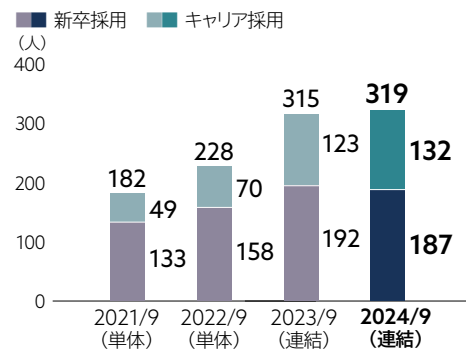
お客さまとの信頼関係を構築できる人材の育成に向けて
社員が最大限に活躍できる環境づくりへの惜しみない投資を継続し
お客さまへの提供価値の最大化を目指す

● 経営戦略と連動した、Vision実現のための施策

当社では、経営戦略に紐づく人材戦略を策定し、多岐にわたる施策を実施しています。経営戦略と連動し、人事領域の課題を解決しながら、人的資本経営の基盤を構築することで、社員一人ひとりの成長と持続的な企業成長の実現を目指しています。



● 事業拡大・市場の需要変化に応じた人材の確保・育成



当社はクラウドのプロフェッショナル集団として、お客さまの期待に応えられるよう、急速な市場変化に適応し、先進技術の獲得に努めています。

採用においては、年間300名程度の採用を継続していく方針です。エンジニア不足が加速している環境下において、お客さまの多様で高度なニーズに応えられる専門性の高い人材の採用・育成・定着に努めています。

▶ P30 人材育成

社会課題
重点テーマ

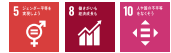
DE&I



マテリアリティ

**すべての社員が個性を最大限に活かせる
企業文化の醸成**

関連する主なSDGs SDGs8-5 すべての人に働きがいのある仕事の提供



社員一人ひとりの価値観を互いに尊重し合う職場環境で
多様な人材がパフォーマンスを発揮できる制度と機会を公平に提供し
組織と人材の力を最大限に生かす企業風土を醸成

● JBSのDE&Iポリシー

これまで当社では、働き方改革を起点にワークスタイル変革や仕事と家庭の両立が可能な職場環境の整備に取り組んできました。その深化を図るため、2024年9月期にDE&I推進体制を整備、DE&Iポリシーを策定し、多岐にわたる施策を推進しています。

「自分らしく、ありのままでいられる」環境をつくることで、
誰もが活躍でき、持続的な成長とイノベーションを生み出しつづける企業へ



一人ひとりの違いを
理解し、尊重する



誰もが活躍できる
機会と環境を提供する



一人ひとりの存在意義が
共創を生み出す

当社は、Mission「優れたテクノロジーを、親しみやすく」の実践を通して、お客さまとの新たな価値共創を目指しています。そのためには、多様な価値観やバックグラウンドを持つ人材が、互いに認め合い、支え合う企業風土が不可欠です。社員一人ひとりの違いを尊重し、公平な機会を提供し、それぞれの個性やスキルを最大限に引き出すことで、持続的な成長やイノベーションの創出を推進しています。これらの取り組みが評価され、2024年12月には、ダイバーシティ&インクルージョンに取り組む企業を認定・表彰する日本最大級のアワード「D&I AWARD」において、「アドバンス」に認定されました。



▶ P33 DE&I

JBSの価値創造プロセス

当社は、企業理念を起点にマテリアリティを定め、事業を通じてお客さまのビジネス成果及びサステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

Mission 企業理念

「優れたテクノロジーを、
親しみやすく」

Vision 目指す姿

「社会のデジタル変革をリードする
No.1 クラウドインテグレーター」

マテリアリティ

事業機会

- クラウド導入効果の最大化
- 時代に即したIT環境の実現・維持
- すべての人が生きがいを感じる多様な働き方の実現
- パートナーとの協創によるカーボンネガティブへの貢献

経営基盤

- 信頼されるクラウドプロフェッショナル人材の育成
- すべての社員が個性を最大限に活かせる企業文化の醸成

競争力の源泉

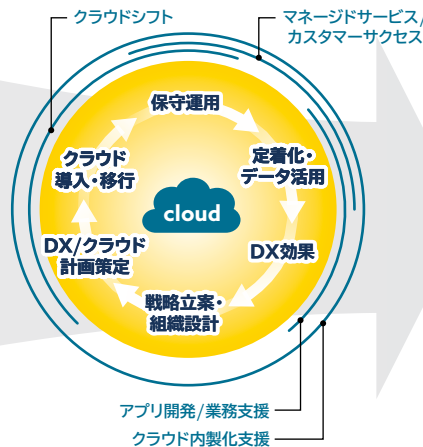
- 社会関係資本
 - パートナーシップ
 - グローバルビジネス
 - 幅広い業種にわたる顧客基盤

- 人的資本
 - 多様なプロフェッショナル人材
 - 専門性の高いエンジニア集団
 - マイクロソフトの知見・実績

- 知的資本
 - 多様なAI技術を駆使
 - JBS独自のソリューション
 - 技術検証

顧客基盤
238万ID

ビジネスプロセス



中期経営計画

(2023年9月期～2025年9月期)

ID×ARPUによる
クラウド促進を継続

人材獲得・育成強化
(人的資本経営)

標準化×内製化支援

資本業務
提携企業との
グループシナジー
の創出

新事業への
チャレンジ

経済価値

2024年9月期
連結業績

売上高
1,408億円

営業利益
45.9億円

ROE
6.7%

社会価値

お客さま

- クラウド・AI活用を通じた自動化及び生産性の向上
- ゼロトラストによる安心・安全なセキュリティ環境
- 内製化・市民開発による事業成長の促進
- グローバルスタンダードによる競争力の強化
- 多様な働き方の実現

株主・投資家

- 継続的な株主価値の向上と安定的な株主還元

メーカー・パートナー

- 協業を通じた、優れたクラウド製品の展開

従業員と家族

- クラウドネイティブな人材の育成
- 個性を最大限に活かせる環境の提供
- ディーセントワークの実現

地域・社会

- クラウド活用を通じた環境負荷の軽減
- クラウドDXを通じた豊かな社会の実現

社会課題

- 多様な働き方
- ITによるビジネス変革
- 少子高齢化対策
- 地方創生
- 気候変動問題

顧客課題

- DX人材育成
- セキュリティ強化
- グローバル競争力